

ごあいさつ



那珂川町長

川崎 和郎

明けましておめでとうございます。皆さまおそろいで希望あふれる新春をお迎えのこころからお喜び申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、合併後の那珂川町の一体感の醸成を最優先課題に取り組んだ一年と言っても過言ではないと思います。

新たなまちづくりの10カ年の基本方針を示した「那珂川町振興計画基本構想」及び行財政改革を推進する「行財政改革大綱」を策定しました。また、7月から8月に開催した町政懇談会において「那珂川町振興計画基本構想」「行

財政改革大綱」について説明し、町政全般についてのご意見やご要望をお聞きしてまいりました。

そして、それらを反映した行政運営の指針となる「那珂川町総合振興計画」や数値目標を盛り込んだ「行財政改革推進計画」が昨年11月に完成し、その概要版を各戸に配布したところです。

今後は、この振興計画や行財政改革推進計画に沿った町政運営にまい進したいと思っております。

一方、教育行政につきましても、学校統廃合計画について学校単位に説明会を開催し、検討委員会の経過や今後の小・中学校のあり方について、協議してまいりました。

今後は、通学の方法や安全確保、学校整備の充実等地域と十分協議しながら統廃合を進めてまいります。

また、町財政につきましても、都市部など一部の企業等で景気回復の兆しが見られるとは言え、那珂川町のような地方においては、依然とした景気の低迷により暗闇から抜け出すことができず、三位一体の改革による地方交付税や

補助金の大幅削減の影響もろに受け、大変厳しい状況にあります。

そこで、新たな地方自治の確立を目指し、行財政改革によって財政の健全性を維持し、「那珂川町総合振興計画」に沿った行政を運営するため、次の6つの施策を基本目標に掲げ、推進してまいります。

「安全・快適なユニバーサルデザインのみちづくり」では、上下水道や地域防災及び情報通信網などの生活環境基盤の整備充実を図ります。

特に、昨年着工しましたケーブルテレビ高度化事業では、平成23年のアナログ放送の終了に備えて、町内全域で行政情報の発信や災害の緊急連絡放送、保健システムや農業情報への活用など多方面での利用ができるよう基盤を整備いたします。

「笑顔あふれる元気な心あたたかなまちづくり」では、健康、医療、福祉、少子高齢化対策などの充実を図ります。

「人を育て未来を拓くまちづくり」では、特色ある学校教育や生涯学習などの充実を

図ります。

「人がにぎわい活力あるまちづくり」では、歴史文化や観光資源をネットワーク化し観光基盤の整備充実や観光と連携した農林水産業や商工業の振興を図ります。

「豊かな自然と共生するまちづくり」では、緑豊かな自然環境の保全対策を図ります。さらに、地域循環型社会を目指した環境に配慮した施策を推進します。

「改革への道」では、健全な財政運営が図られるよう改革への道を歩み出します。さらに住民との協働のみちづくりを推進するための仕組みづくりを行います。

これからも町民の立場に立った「町民との協働のみちづくり」を推進し、町民の皆さまや議会の意見をお聞きし、それらを町政に反映させたいと思いますので、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に皆さま方のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

新年の



那珂川町議会議長

杉本 益三

新年あけましておめでとう
ございます。町民の皆さまに
は希望に満ちた新春を、ご家
族おそろいで健やかに迎え
のことと心からお喜びを申し
上げます。

昨年を振り返ってみます
と、秋篠宮悠仁親王殿下のご
誕生の大変喜ばしい、明るい
出来事がありました。一方、
我が国に大きな衝撃となった
北朝鮮の核実験をはじめ、幼
児虐待、いじめなど命の尊厳
に関わる問題、国民年金不正
免除や酒酔い運転事故などの
憂うべき出来事もございまし
た。行政の面では、国や地方
の行財政改革が声高に叫ば
れ、自治体の財政破綻にも高

い関心が示されました。

さて、当町に目を向けます
と、那珂川町懸案の総合振興
計画が、昨年11月に策定され
ました。また、行財政改革推
進計画についても、数十回に
わたる会議を経て、具体的目
標を掲げた計画が策定されま
した。いよいよ、これらの計
画の具現化に取り組まれると
いうところまで進んでしまし
た。

那珂川町など小規模自治体
は、三位一体の改革による地
方への税源移譲、国庫補助金
の削減、地方交付税の見直し
の影響が懸念されています。

また、当町においては、少
子化の進行に伴う小中学校の
統廃合の推進、町民の一体感
の醸成と高度情報基盤の確立
のためのケーブルテレビ高度
化事業のほか、県営最終処分
場関連の地域振興等々大きな
課題も抱えています。このよ
うな中、振興計画や行財政改
革の推進にあたっては、限ら
れた財源を活かし、経費の削
減を図るなかで、極めて難し
い課題に直面することもある
と思われませんが、今年の干支
の亥のように目標に向かって
突き進まれることを願ってお

久保田米遷（鶴）明治34年（1901）頃 那珂川町馬頭広重美術館蔵



ります。

小さな政府に対し、地方も
効率の良い「小さな行政」と
いわれていますが、この実現
のためには、行政主導型から
地域住民との協働による提案
型の地方自治、また、地方分
権では「自分たちの町のこと
は自分たちで決める」という
ことと併せて「その責任は自
分たちが負う」ということも
言われています。新時代にふ
さわしい地方自治の確立を図
るためには、町議会もその一
翼を担っていかねければなり
ません。その期待に応えられ

るよう、さらに努力をしてま
いる所存であります。

同時に、議会本来の機能を
十分発揮し、町民の皆さまの
負託とご期待に添うべく、議
会の改革、活性化への取り組
みをしていかなければならな
いと、強く感じているところ
であります。皆さまの特段の
ご理解とご支援をお願い申し
上げます。

最後に、新しい年が皆さま
一人ひとりにとって実り多い
一年になりますよう、心から
ご祈念申し上げます、新年のごあ
いさつといたします。